

緑のまきば

2023年 No.56

小金井緑町教会

小金井市緑町四・一六・三三

TEL 042・381・7961

牧師 山畑 謙

『我ら、羊の群れ』

山畑 謙

説教

2023年度の聖句

「私たちは主のもの

その民

主に養われる羊の群れ」(詩編100章3節)

聖書に登場してくる動物と言えは「羊」になるでしょう。聖書の民は、もともと遊牧民族で、羊を家畜として飼っていました。家畜化された動物は、野生の厳しい生存競争を生き抜く動物たちとは、ちよつと違います。

古代の支配者たちが残した大きな岩に刻んだレリーフには、獅子や鷲など力強さを表す動物が王に重ねられて描かれています。それも分かるような気がします。私たち平凡な市民であっても、何らかの個性や力を有している動物に自分を重ねたくなるものです。人はそれなりに何らかの能力ある動物に自分を重ねるのではないのでしょうか。

羊という動物は、特別に逃げる能

戻してくれます。

神さまの御前で、自分たちは「羊の群れ」だと言うということは、自分たちの能力や力によって生きるのではなくて、ひとえに羊飼いによって守られ、養われて、生きていけるのだということ、告白していると言えるでしょう。

詩編100編で、自分たちは偶然の産物ではなく、神さまが「造って」下さって、生きているんだと言います。これに対して、世の中の事は偶然的連続のように見えるかもしれませんが、そんな世界で自分の力(能力)で自分のやりたい事をやり遂げている事が、いい人生なんだとも言われます。

人はやりたいようにやれる内は、自分はいっぱしのものなんだと自負するのでしようけれども、いつの日にかそれは壁に突き当たり、思うようにならなくなる時を迎えるのではないのでしょうか。あるいは死ぬまで金持ちで、贅沢な暮らしをし、誰もが羨む医療を受けて、安楽に死んでいく人がいるかもしれません。しかし、「死」は残酷で、どんな財産も名誉も肩書も、すべてを無に帰していきます。そのすべてを空しくする死を、悟りきって受け入れる事など

本当はできないと思います。

自分の思うように物事が運ばなくになると、あの「偶然」と呼称して、「運が悪いんだ」とするのが、この世での対処法ではないかと思えます。「運」には、『人格性』、『心』がないのです。ですから、悪い事が起こらない「日にち」や「方角」などを先に計算式ではじき出して示し、災いを避けようとするわけです。

自分には「心ある造り主」がいて、羊飼いのように、その眼差しがいつも注がれているのだと知ることは、とても幸せだと思います。迷い出る愚かな罪を犯す者のために、造り主なる神さまは、御子イエス・キリストを遣わして下さり、十字架によってそのすべての罪を赦し、死に勝利する復活によって永遠の命を与えて下さいます。

この今も生ける復活の主が「良き羊飼い」として、私たちを一人一人見つけ、導き、養い、守って下さることを信ずる信仰を頂く時、心から喜んで感謝の声をあげたくなるでしょう。我らは、主イエスという良き羊飼いに召された(見つけ出され、救われた)羊の群れ。羊飼いの声にいつも耳をすませていこうではありませんか。